

南アフリカ 生食用ブドウがケープタウン港の遅延を回避する方法

FreshPlaza 2024年2月6日

第4週までの輸出検査数量は22%増加

南アフリカ生食用ブドウ産業協会(SATI)とその他の関係者らは、現在の梱包・輸出のピーク時に、ケープタウン港の遅延を回避して出荷する方法を見つけることができた。第4週までに輸出されたブドウの約10%を占める280万箱以上が、非コンテナ船で出荷された。これは、2022-23年度の出荷シーズン全体を通じて非コンテナ船で出荷されたブドウの約3倍である。出荷量が減少し始めるまでの今後4~5週間は、毎週約2千コンテナ(40フィートコンテナ換算。以下同じ)を輸出する必要がある。

様々な船会社の多様な戦略により、ケープタウン港を回避し、ポートエリザベス、ダーバン、ウォルビスベイ等の他の港を利用する取り組みは、すべての貨物(ブドウ以外も含む)について今シーズンこれまでに約5千コンテナに達した。これは、ケープタウン港コンテナターミナル(CTCT)のフル操業の約3~4日分が他の港にシフトしたことに相当する。

第4週までに、約750コンテナ、すなわち270万箱の生食用ブドウがケープタウン港を迂回した(ほとんどがポートエリザベス港から出航)。同協会は、コンテナターミナルを利用する必要のない特殊な冷蔵船(非コンテナ船)での果実の輸送量を増やすことで、困難な状況にあるケープタウン港への圧力が緩和されたと報告している。

全国の出荷数量の最新情報

第4週までに合計4,720万箱が輸出のための検査を受け、これは昨年同時期より22%多い。同じ第4週までの輸出数量は合計3千万箱で、これは前シーズンとほぼ同水準である。検査済み箱数と輸出済み箱数の差は1,730万個である。

産地ごとの最新情報

北部地域の梱包は2024年2月2日(金)までに完了する見込みで、予想収穫量の580万箱に達すると見られる。後続の船の遅延は、到着時の品質に明らかに影響を与えている。

オレンジ川流域のほとんどの地域では梱包が完了し、予想収穫量を上回っており、最終的な検査数量は約2,390万箱と予想される。

オリファンツ川地域のほとんど(80%)の生産者は今後4週間で梱包を完了し、340万箱に届くと推定される。

ベルク川地域では品質面で素晴らしい年であることが報告されており、収穫量は予想数量の1,910万箱に近いことが期待されている。今後3週間は梱包が集中すると見られることから、ボトルネックが発生すると予想されている。

ヘックス川流域の一部の地域では、山火事の影響で個々の農場では小規模な被害が出ていると報告されているが、状況は概ね制御されており、収穫量や品質に影響を与えることはないものと予想される。出荷量は約2,350万箱と見込まれている。